

Sharpline™ SDS-PAGE 用 タンパク質分子量マーカーセット <<Broad range>>

Code No.: PMW-102

Lot No.:

【製品内容】

Broad range makers :500 μ l

(各バンドの詳細は裏面をご参照ください)

Special Dye set

・SDS-Dye (-DTT) :900 μ l

・1M DTT :100 μ l

【保存条件】 -20°C

【製品説明】

●Broad range makers

本製品は Laemmli 法に基づいた SDS-PAGE 用の分子量マーカーです。高度に精製されたタンパク質を混合して調製されています。一般的な 10~15 ウェルのミニゲルでは 5 μ l、16~20 ウェルのミニゲルでは 2.5 μ l を目安に使用します。手で温めて溶解し、軽く混合し、アプライしてください(加熱する必要はありません)。成分に関しては、裏面をご参照ください。銀染色もしくは SYPRO Ruby による検出の場合は、適宜量を減らして使用ください。(プレステインドに調製されているカルボニックアンヒドラーゼは SYPRO Ruby 染色されにくい傾向にあります)

●Special Dye set

本製品は、SDS-PAGE におけるサンプル調製用の 4×濃度 SDS-Dye のセットです。DTT(ジチオスレイトール)が別添になっており、還元条件下、非還元条件下それぞれにおいてサンプル調製が出来るようになっています。試薬の調製法は以下のように行ってください。

<還元条件下での使用>

SDS-Dye (-DTT) : 1M DTT = 9 : 1 で混合して使用します。添付されている試薬の全量を使用する場合、添付の 1M DTT 全量を、添付の SDS-Dye (-DTT)のバイアルに添加し混合します(⇒ラベルの DTT added? □にチェックマーク を入れて使用すると便利です)。サンプル : SDS-Dye (+)DTT = 3 : 1 で混合し、5 分間煮沸(もしくはサーマルサイクラーで 99.9°C 処理)してから適量をアプライします。膜タンパク質等の場合、煮沸しない方が綺麗なバンドを示す場合がありますので、煮沸は必要に応じて行ってください。

<非還元条件下での使用>

SDS-Dye (-DTT) : 滅菌ミリ Q 水=9 : 1 で混合し使用します。添付されている試薬の全量を使用する場合、添付の SDS-Dye (-DTT)のバイアルに滅菌ミリ Q 水 100 μ l を混合します(⇒ラベルの DTT added? □に のようにマーカーでチェックしておくこと間違えずにご使用頂けます)。サンプル: SDS-Dye (-)DTT = 3 : 1 で混合し、必要に応じ 5 分間煮沸(もしくはサーマルサイクラーで 99.9°C 処理)してから適量をアプライします。

※SDS-Dye (-DTT)の組成は、0.22M Tris-HCl (pH6.8)、8.9% SDS、グリセリン(至適量)、BPB(至適量)から成っています。全て分子生物学グレードの試薬を用いて調製されています。

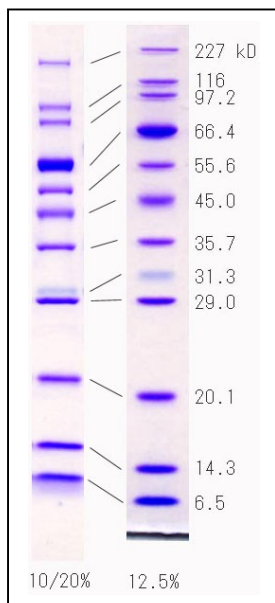
※SDS-Dye は氷上で析出しますので、手で暖めて溶解し、室温で使用してください。

【成分表】

Code No.: PMW-102

Lot No.: _____

タンパク質	由来	概算分子量
ミオシンH鎖	ウサギ筋肉	227,000
β -ガラクトシダーゼ	大腸菌	116,000
フォスホリラーゼ b	ウサギ筋肉	97,200
血清アルブミン	ウシ	66,400
グルタミン酸デヒドロゲナーゼ	ウシ肝臓	55,600
オボアルブミン	卵白	45,000
グリセルアルデヒド3リン酸デヒドロゲナーゼ	ウサギ筋肉	35,700
プレステインドカルボニックアンヒドラーゼ	ウシ	約 31,300
カルボニックアンヒドラーゼ	ウシ	29,000
トリプシンインヒビター	ダイズ	20,100
リゾチーム	卵白	14,300
アプロチニン	ウシ肺	6,500



【注意点】

- ・各タンパク質の分子量は mature polypeptide のアミノ酸配列に基づいて算出した値です。
- ・オボアルブミンの分子量は糖鎖の分子量も考慮した値です。
- ・プレステインドカルボニックアンヒドラーゼの分子量は検量線より求めた値です。